

ワクワクすることが出発点  
女性に人気の仕事

マッサージ・セラピスト

# 経営者×スタッフ

パースで2006年からマッサージ店を経営するドニー・ロイさん。彼とのお店でセラピストとして活躍する2人の日本人女性に、マッサージの仕事と職場環境についてインタビューをしました。日本人女性2人とも、パースに来てからマッサージの仕事に挑戦しています。



## 経営者 ドニー・ロイさん

レッツ・リラックス・マッサージ・セラピー・経営者。約30年前にビルマより渡豪し、小売事業を展開する。マッサージ事業への興味からディプロマを習得し、現店舗を開業。



## スタッフ 岡田 有紀さん

レッツ・リラックス・マッサージ・セラピー・セラピスト。日本では幼稚園の保育士として従事。来豪後も小学校でボランティアをするなど、幼児教育に携わってきた。



## スタッフ 早川 香織さん

レッツ・リラックス・マッサージ・セラピー・セラピスト。趣味のサーフィンと英語習得を目的に来豪。学生時代から中国に留学するなど、海外で長く過ごす経験を持つ。



## 初心者からのスタート

新しいことを始めるきっかけは身近なところに。ワクワクすることにチャレンジした2人の好奇心と、その先。

岡田：「私の場合、今までのキャリアはマッサージとは全く関係がありませんでした。幼稚園の先生をしていたときによく肩が凝るので、マッサージに行くことが好きだったんです。海外で興味があることにチャレンジしてみるのもいいな、と思って応募しました」

早川：「私も、ゼロからのスタートです。実は、中国に4年間留学していて、そのときにマッサージを受けることが好きだったんです。とにかく気持ちが良くて。それで、自分もやれたら



楽しいだろうなと思いました。最初は初心者でできるのか、本当に不安でしたね」



ロイ：「2人とも面接のときに、この仕事に対する真っ直ぐな姿勢を感じました」

岡田：「仕事を始めた頃の頃は、体のツボを見つけることが大変でした。特に、オーストラリア人とアジア人では体の作りや、筋肉のつき方が異なりますし」

早川：「スタッフ同士で、練習し合ったりもしました。上手になるのがわかると、それがまた次への頑張りにもなります」

ロイ：「この仕事は、指、手のひら、肘を使うので、最初のうちは痛くなることもあるでしょう。大事なことは、ツボを押えるために正しい姿勢を取ることです。練習を繰り返すことで、コツがわかり、痛みを感じることもなくなるでしょう。プロフェッショナルへの階段です」

ロイ：「初心者を採用するときには、“素直であるか”“信頼できるか”を見るようにしています。“やりたいことに素直”であれば、多少の困難は努力して解決しますから」



## マッサージ・セラピストの仕事って？

『健康志向』、『癒し志向』の高まりにより、女性に人気の仕事の一つとなっている。ここパースでは、東洋医学も受け入れられており、西洋と東洋の双方、また融合したスキルを学べる。人の体と心を整える究極のリラクゼーション。



### 『レッツ リラックス マッサージ セラピー』でのマッサージ・セラピストの仕事

- 予約確認・受付 ■施術の準備 ■施術（スウィディッシュ、ディープティッシュ、指圧、リフレクソロジーなど）
- 予約電話対応 ■トレーニング（上記メニューの習得）

取材先

Let's Relax

### MASSAGE THERAPY

レッツ リラックス マッサージ セラピー  
パースシティの中心地に位置し、2006年から営業するマッサージセラピー。多彩なメニューとスタッフのきめ細やかな施術に定評がある。

住所：125 Barrack St. Perth  
電話：08 9221 1001

## 日本とオーストラリアの職場の違い

国が違えば、お客さんも、働く環境も異なる。お客さんと対面で接するカスタマーサービスの現場で感じる違いとは。



早川：「お客さんがとにかくフレンドリーで明るいんです。初対面の人とでも、すぐに会話が弾みます」



岡田：「お客さんと従業員が対等の関係なんだな、と感じます。マッサージを“してあげる”“してもらおう”という関係ではないんです」

早川：「私のマッサージに満足いただいたとき、喜んだ表情をしてくれたり、誉めていただけるのは、本当に嬉しいことです」

ロイ：「金融や建築関係者、オフィスワーカーなどいろいろなお客さんが見えますが、確かに皆さんフレンドリーですね。お客さんと従業員の間関係もそうですし、一つのお店で働くスタッフは、一つの家族のようなものです」



## 英語で仕事をする

英語の職場環境とはどんな雰囲気？英語を使ってどんな仕事をするのか？も海外で働く以上、考えさせられること。



ロイ：「うちのお店は、日本人、韓国人、タイ人、台湾人、フランス人など、国籍がミックスした職場環境です。共通言語の英語で仕事をしています。日本人同士が日本語で話しても、その会話は他のスタッフは理解できないので、当たり前の話ですが、英語で会話をしています」



早川：「ドニーさんはわかりやすい英語を話してくれるので会話で苦労したことはありません。ただ、お客さんと施術の専門的な話になると苦戦することもあります」



岡田：「オーストラリアに来た頃の頃は、英語での会話が不安でした。でも、いったん喋れるようになると楽しく感じるようになるんです」

岡田：「それから、マッサージの仕事は、世界のどこに行っても働ける職業だと思います。将来、違う国に行きたい！と思ったときに好きなマッサージの仕事に就ける可能性があることは嬉しいです」



早川：「私も同じ意見です。マッサージは語学と同じようなもので、技術があれば働く場所の制限がなくなると思います。世界中のお客さんを気持ち良くさせてあげたいですね」

ロイ：「私も、ストレスを軽減し、緊張をほぐしてくれるマッサージの効能に興味をもって以来、勉強を重ねて今のお店を開業しています。“人の体と心を癒す”という自身のやりたいことに素直に向き合ったからこそ、今の仕事と今の自分があると思っています」